

入鹿池耐震性調査結果の概要

調査結果：想定される大規模地震に対し堤体の変状はわずかで、耐震性能を満たしている。

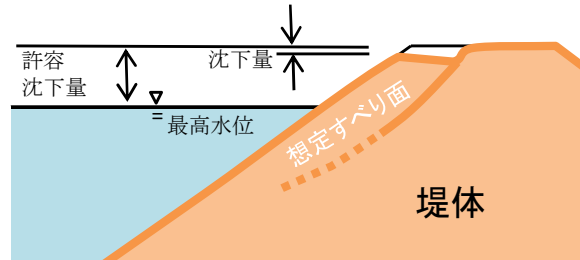
○耐震性能の評価

地震動の大きさと継続時間を考慮した数値解析によって堤体の沈下量を算出。堤体の沈下量は、地震後も貯水機能が維持される許容沈下量を下回る。

区分※	想定地震による最大沈下量
河内堤	0.11 m
中堤	0.09 m
東堤	0.13 m

<

許容沈下量
2.31 m
2.27 m
1.59 m



※入鹿池の堤体は、築造の経過や構造などにより「河内堤」、「中堤」、「東堤」に区分されており、それぞれの堤防を検証。

○対象とした地震動(レベル2地震動)

海溝型、内陸活断層型の3つのケースで検討

タイプ	名称	説明
海溝型	理論上最大想定モデル※1	南海トラフで発生する恐れがある地震のうちあらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震
	過去地震最大モデル※1	南海トラフで繰り返し発生している地震のうち、発生記録が明らかで規模の大きいものを重ね合わせたもの
内陸活断層型	猿投-高浜断層	近接する活断層から、入鹿池堤体に最も影響を与える可能性が高いものを選定

※1「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査」が公表したモデル

○入鹿池耐震性検証委員会

平成24年11月26日から平成27年3月24日までに5回の委員会を開催

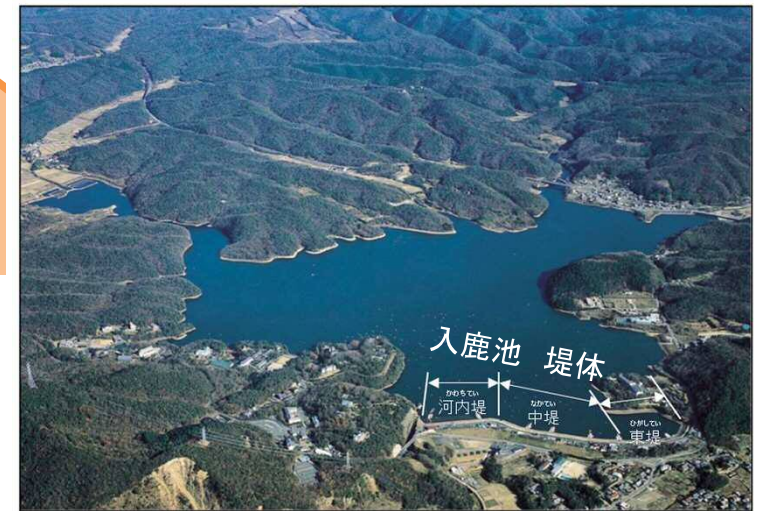
審議事項

- 過去の堤体改修・補強履歴調査
- 堤体内部構造の詳細調査(ボーリング調査、物理探査等)
- 液状化発生の可能性診断
- 大規模地震動の継続時間を考慮した数値解析による耐震性の評価

入鹿池の概要

かんがい地域	犬山市、小牧市、大口町、扶桑町	
流域面積	3,440 ha	
規模	満水面積	152.1 ha
	貯水量	15,187,000 m ³
	堤体	高さ(堤高)
延長(堤長)		724 m

全国最大級



○入鹿池の健全性について

調査過程で判明した下記事項について、詳細調査を行った結果、入鹿池堤体の健全性に支障はなかった。

- 過去に漏水対策として実施された遮水グラウト材の調査
- 下流法尻部でみられた浸潤箇所を経路検証
- 堤体内に存在する火山灰層の液状化調査

委員名簿

氏名	職名	備考
委員長 毛利 栄征	茨城大学 農学部地域環境科学科 教授	学識経験者
小林 晃	関西大学 環境都市工学部都市システム工学科 教授	学識経験者
酒井 俊典	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授	学識経験者
杉戸 真太	岐阜大学 理事・副学長	学識経験者
中村 直文	愛知県農林水産部農林基盤局 農地環境対策監	行政